

サビエル生誕五百年



巡礼の道

183

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

トンレサップ湖

七月にカンボジアの貧しい人々を支援している「バタンバン友の会」のスタッフとシエムリアップ、コンポン・トム、プノンペンなどを旅した。十一月に再びシエムリアップを訪れ、アンコール遺跡巡りに参加した。合わせて二週間余りの旅でどれだけ新生カンボジアを伝えることができたかと十八回分を読み直した。

カンボジアがフランスの植民地支配から独立したのは第二次世界大戦終結から八年たった一九五三年。その後

もベトナム戦争、ポル・ポトとの内戦で混乱が続き、やつと一九九三年に新憲法が公布され、現在のカンボジア王国が誕生した。今からわずか十六年前のことである。

新生カンボジアはこれからの国である。バタンバン友の会などが支援しているように今も過去の負の遺産を抱え、国民の多くは極めて貧しい生活を強いられ続けている。それでも活気を感じるのは十五歳以下の子どもが国民の半数以上を占めているからだろう。子ども

は大人に生きる喜びを与えてくれる。

カンボジア中央平原の東や西寄りである東南アジア最大の湖。伸縮する湖とも言われ、雨季には乾季の三倍もの広さになる。乾季でも琵琶湖の三倍以上もあり、農業国カンボジアの東寄りを北から南に流れるメコン川とともに豊富な水をもたらす。そこに住む淡水魚も三



2009.07.24

湖畔に行く小舟での旅

百種を超え、これは世界最多と言われる。

七月に訪れた時、小舟で湖畔を旅し、もつと観光資源として活用すべきだと思った。

十一月にアンコール遺跡めぐりに参加した時、朝から夕方まで遺跡だけを三日間、連れ回された。さすがに三日目には「また遺跡か」という声も出る。遺跡観光の拠点シエム

加者に伝えるためにワンプアーンにならないように工夫してほしいと痛感した。

バタンバン友の会などの支援ボランティア活動が一般観光ツアーとは異質なものはあるが、地球市民として共生する立場からもこれらの海外観光旅行にはそのような視点が必要ではなからうか。

また世界遺産だけを見物するのではなく、

二十一世紀の今も、電気や水道もない貧しい人たちの存在を肌で知ることが旅する日本人にとっても大切なことだと思う。

十八回にわたったカンボジア編はあと一回で終わり、そのあとはベトナム編の予定。

今年最後の巡礼記に心からの感謝を込めて。

(元山口放送取締役ラジオ局長)



2009.11.04

王朝をしのばせるアプサラの踊り手と